

## No.1 子猫を飼い始める!!

### 子猫の食

自分で健康管理ができる人間とは違い、猫は自分で生活の環境を整えたり、ストレスを自分で避けたりすることはできません。すべて、**飼い主さん次第**ということになります。

ここでは、あなたが**猫と末永く健康に暮らすためのコツ**、つまり猫の世話をするとき**に注意したほうが良いポイント**をまとめました。不安

に思う点や疑問があれば、信頼できる動物病院を探して相談しましょう。

※猫の寿命は人間の約5分の1で、「猫の1年」は「人間の5年」に相当すると言われています。ここでは、0~6カ月齢の猫を子猫と呼ぶこととして(人間の年齢に換算すると、およそ0~12歳齢に相当)、そこから1歳齢で体の成長が完了するまでの間に注意すべきポイントをまとめました。

## どんなフードを、どうやって与える？

### ● 飼い始め

最初のうちはブリーダー、ペットショップ、前の飼い主さんなどに、与えていたフードを2、3日分けてもらったり、好みを聞いたりしておきましょう。

### ● 子猫に必要なカロリー

一般に猫が1日に必要とするカロリーは体重1kg当たり70~90kcalです。離乳後(1カ月齢)~10カ月齢以内の子猫は体重1kg当たり280kcalと、成猫よりはるかに多いカロリーを必要とします。子猫の体重は成猫に比べると4分の1程度ですから、成猫と同じ量の食事を目安として与えれば良いでしょう。



### ● フードを選ぶ

「総合栄養食」と表示してあるものにします。1歳齢になるまでは子猫用フードを与え、1歳齢になったら成猫用フードに切り替えましょう。また、違う種類のフードはカロリー計算や成分に多少の違いがあるので、混ぜないほうが良いのですが、別の種類のフードに切り替えるときは、前のフードと新しいフードを混ぜて、新しいフードの割合を徐々に増やしていくようにすれば、猫も受け入れやすいようです。

### ● 与えるときのコツ

1日分の分量をはかりで計って与えましょう。ドライフードを与える場合には、計量カップに印をつけておくと便利です。また、猫は1回に少量しか食べないことが多いので、数回に分けて与えるのがベストです。



### ● フレーバー/種類

子猫の時期に食べたことのないものは、成猫になってからも食べないことが多いものです。将来、年齢別のフードや療法食に切り替える必要が出たときのことを考えて、色々なフレーバーのフード(肉味/魚味、ドライ/ウエットなど)に慣れさせておくとう良いでしょう。



### ● 人間用の食品は与えない

かつお節など、人間の食べ物は猫にとっては味が濃いので与えないようにしましょう。  
※とくに与えてはいけないもの：ニンニク、ネギ類、チョコレート(ココア)、コーヒー、紅茶、緑茶、アルコール、エビ、イカ、タコ、カニ、アワビ、骨付きの魚、骨付きの鶏肉など。これらは猫の体に深刻なダメージを与えます。



### ● 手作り食

猫用にカロリー計算や栄養調整をキチンとするのはとても難しいことです。ですから、猫に必要な栄養素が過不足なく含まれたキャットフードを与えることをおすすめします。また、生肉や生魚は寄生虫や病気の感染を防ぐという点から、避けたほうが無難です。

### ● 食器を選ぶときのポイント

フード用と飲み水用の2種類が必要です。安定性や衛生面から、プラスチック製よりもステンレス製や陶器製のほうが良いでしょう。とくに猫用の器でなくても構いません。フード用、飲み水用とも猫1頭に各1個ずつ用意してあげてください。ヒゲが当たる器をいやがる猫もいますので、とくにウエットフードを与える場合には、ボウルタイプよりも平らなお皿で与えたほうが食べやすいようです。



### 担当医から一言

フードは  
質と量に注意しよう!!



### REFERENCES / 参考図書

AAFP-AAHA Feline Life Stage Guidelines  
『ねこのお医者さん』石田卓夫・著(講談社)  
『猫と暮らすと幸せになる77の理由』石田卓夫・監修(Collar出版)  
C. A. Tony Buffington, What Cat Owners Can Learn About Captivity, NAVC Clinician's Brief, 2011.